

ちいさな手

ふくいん
福音宣教の社会的次元きょうこう
～教皇フランシスコ使徒的勧告「福音の喜び」より～こうだかずお
幸田和生司教：カトリック東京大司教区補佐司教 講演会

幸田和生司教

7月1日(土)にカトリック東京大司教区補佐司教・幸田和生司教の講演会が横浜聖アンデレ教会で開かれ、いわゆる「社会問題」をカトリックではどのように捉え、どのように取り組んでいるのか、ということについて、フランシスコ教皇の使徒的勧告『福音の喜び』から学びました。

前提としての「新しい福音宣教」の意味

かつてのように「未だキリストを知らず洗礼を受けていない人への宣教」という意味ではなく、すべての人を福音宣教の対象としています。すでに信徒である人々も本当の意味で「福音化」されなければならないということです。今の世界は格差と排除の社会であり、貧しい人々はまるで存在しないかのように扱われています。そして、恐ろしい「実用主義」に陥り、いつも目に見える結果を求めています。それは教会の中にも見られるものです。果たしてこのような現状の中で、福音を告げ知らせるとは一体どういうことなのでしょう。『福音の喜び』の中で、福音の告知は次のように記されています。「イエス・キリストはあなたを愛し、あなたを救うためにいのちをささげられました。そして、キリストは今なお生きておられ、日々あなたのそばであなたを照らし、カづけ、解放して下さいます」

「福音宣教の社会的次元」

「福音宣教とは、この世界に神の国を現存させることです」

「神の国はすべての人の救いを目指し、だれをも除外しない」

「教会は正義のための戦いを傍観していることはできず、傍観すべきでもない」

「神のみ心には、貧しい人々のための優先席がある。イエスの生涯の貧しさ！」

「貧しい人を優先する。教会が貧しくあること。わたしたちは貧しい人々から福音化される。彼らを教会の歩みの中心に置く」

(次ページに続く)

これらの教皇の言葉の背景には、1960年代、カトリックの「第二バチカン公会議」とラテンアメリカを^{ほったん}発端とした「解放の神学」の^{えいきょう}影響があり、まさにフランシスコ教皇は、アルゼンチンでこの時代を^ぬ生き抜いたのです。

4つの原則

『福音の喜び』では、具体的に平和と正義と兄弟愛をもって国民形成を進めていくための4つの原則を提示しています。

①時は空間にまさる

早急に結果を出さず、長期的な取り組みを可能にするということ。

「刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい」(マタイ 13:30)

②一致は対立にまさる

対立を無視するのではなく、対立にとられるのでもなく、対立に^た耐えて、それを解決し、新しい道へと変えられていく。そのためには、対立の表面から深いところに入っていく、尊敬への深い敬意をもって他者に目を向ける。

③現実^{じつせん}は理念^{きべん}にまさる

ことばのみ、イメージのみ、^{しんこう}詭弁のみの世界は危険。み言葉の受肉と^{しんこう}実践が重要で、人々の現実の生活の中での^{しんこう}信仰、教会の豊かな伝統、正義と愛のわざ、そのような現実を大切にする。

④全体は部分にまさる

グローバルな視点とローカルな視点の両方が大切。全体は部分の単なる総体ではなく、神からの^{めぐ}恵みである^{ひよく}肥沃な土地。全体の益となる大きな善を見分けるために、常に視野を広げなければならない。そして全体性に関する福音の基準は、「失われた羊」のたとえのように、小さな人をかけがえのない存在として^{だれ}誰一人失わないということ。(司祭 ヤコブ 三原一男)

社会委員会では、今回の講演を記録したDVDを、各教会での学びのために貸し出しています。詳しくは宣教主事までお問い合わせください。

人権セミナー報告

6月23日より26日まで、管区主催の「^{しゅさい}沖繩の旅」に^{おきなわ}参加いたしました。今年の沖繩の旅は管区の人権セミナーを兼ねていますので、管区の人権セミナーにも参加したことになります。

初日には「ザ・思いやり」という映画を観賞しました。「在日米軍」の問題をテーマにした映画でした。この日本に「在日米軍」が、特に沖繩に相当な規模で存在しているということがどんな問題を^か生み出しているかをよく理解できました。

二日目の日程の中では膨大な敷地の嘉手納基地の周りを歩きました。いくら歩いても終わりが見えない基地の方を見ながら、沖縄の方が強いられている犠牲の大きさも感じることができました。

三日目の北谷諸魂教会で沖縄教区の慰霊礼拝に参列しました。礼拝場所である北谷諸魂教会は在日米軍のための教会ですが、慰霊礼拝に参列する在日米軍の数は極めて少なく、「戦争は終わっても戦争が残したことは続いている」と証しているように感じました。いつかはこの慰霊礼拝で多くの米軍の方々も参列し、共に戦争のない世界を作るために祈る機会が与えられることを祈りました。

大事なのは沖縄で経験し、感じたことを私の生活の場で証していくことだと思います。少しでも多くの人々が沖縄の方々の気持ちを、現実を理解できるように私も小さな声を加えて一緒に歩いていきたいと願っております。(執事 テモテ 姜炯俊)

しえん 面会支援ボランティア報告

去る10月5日行われました面会支援の会に参加致しました。参加者は聖職者、信徒等を含め約20名でした。全体を6グループに分け、それぞれのグループに3～4名が配置されました。われわれのグループには、松田司祭、須賀道子さん(横浜聖アンデレ教会)、吉田(柏聖アンデレ教会)の3名でした。あいにく、当日はセンターが混んでいたこともあり、時間切れ寸前になって、漸く、南米出身のJさん(仮名:39才、男性)に、面会ができませんでした。Jさんは、(1)首から肩にかけ痛みがあり収容所内の医師の治療を受けているが、回復は思わしくない。早く外に出て、外部の医者の治療を受けたい。(2)日本には既に17年滞在している。奥さんと子供さん3名は日本での永住権を持っているが自分は持っていない。(3)現在、仮放免を申請中なるも見通しは立っていない。出来るだけ健康的な生活を送りたい。(4)過去に於いては、工事現場等で働いていた。(5)テレフォンカードやラーメンが欲しい。(6)本国には絶対に帰りたくない。何としても日本に滞在したい。(Jさんは日本語が可成り流暢であり、intelligency(知性)も感じられた。面会の最後にガラス窓越しに、我々と手を合わせたのが印象的でした。)



東日本入国管理センター前にて

法務局としてはルールに則り、overstay(超過滞在)している被収容者については、出来る限り早急に本国に強制送還するという立場と思われます。然しながら、日本では労働力はまだまだ不足しており、彼らに負うところが多いと思われます。何らかの条件付きでも仮放免を認め、仕事を

与えることが先決と思われます。先ずは我々の間にそのような雰囲気^{ふんいき}を盛り上げることが肝要^{かんよう}であると思います。尚、難^なキ連^{れん}の佐藤^{さとう}事務局長に於かれましては、収容者のなかでもその貢献^{こうけん}は大変知れわたっており、あらためて、貢献^{いだい}の偉大さに敬服致しました。(フランシス 吉田正明)

寄付のお願い 収容者への差し入れに、以下の寄付を募^つっています。

- 金券(商品券、ギフト券、図書券、図書カード、株主優待券など) ○未使用テレホンカード ○切手
○はがき ○便箋^{びんせん}・封筒^{ふうとう} ○ノート ○文房具^{ぶんぼうぐ} ○シャンプー・リンス ○石鹸^{せっけん} ○歯ブラシ^{みが}・歯磨き粉^{あて}
<送り先>〒110-0005 東京都台東区上野 1-12-6 3F 『難民・移住労働者問題キリスト教連絡会宛』

ことぶきちょう 寿町プロジェクト報告

私たちの寿町プロジェクトが発足^{ほっそく}以来、12年間絶えることなく協働して来たよきパートナーであった、「さなぎ達」「さなぎの食堂」が、今年の春、諸般^{しよはん}の事情により活動を停止いたしました。まことに残念なことであります。その後の事について、改めて横浜市^{ふくしきよく}の福祉局と相談し検討してきましたが、4月から「寿地区センター」と協働する事になりました。こちらは、日本基督教団神奈川教区^{にほんきりすときょうだんかながわ}の働きで、1987年以来30年間、現地に礼拝所、援助活動の事務所を持ち、200円で昼食を提供している憩い^{いこ}の場所「気楽な家」(ここでは横浜聖アンデレ教会の婦人信徒2人が奉仕^{ほうし})や寿公園でのバザーや炊き出し、夜回り等を定期的にされています。これらの運営を専任^{せんにん}の三森牧師が常駐^{じょうちゆう}されていて直接管理をされています。

協働相手は変わっても私達の援助する対象の「寿町の生活者」の老齡且つ孤独な6000人の人達には、何ら変わりはありません。私達の活動も、要望されることは沢山ありますが、あれもこれも無く横濱教区の方々に理解して頂き継続して奉仕できる事に絞って、今迄と同じように生活するのに最低必要な季節に応じた衣類、靴下・タオル・石鹸・髭剃り等の日用品・毛布など、それに炊き出しや気楽な家での昼食、夜回りのおにぎりに必要な、お米の献品、お米券や、お米代^{けんびん}の献金^{けんきん}とを、これからも引き続きよろしくお願い致します。(ヨセフ 中原禮人)

寄付のお願い 支援を必要とする方のために、以下の寄付を募^つっています。

- 金券(お米券、商品券、ギフト券、図書券、図書カード、クオカード、株主優待券など)
○シャンプー ○リンス ○石鹸 ○歯ブラシ ○歯磨き粉 ○安全カミソリ ○靴下 ○タオル
<送り先> 『寿地区センター宛』

社会委員ニュースレター「ちいさな手」第19号 2017年11月11日発行

編集責任者：宣教主事 司祭 松田 浩 編集・構成：原 栄理

社会委員：司祭 三原 一男、司祭 入江 修、執事 姜 炯俊

近藤 順子(横浜聖アンデレ教会)、原 栄理(横浜山手聖公会)